

# 大阪府市場だより

大阪府中央卸売市場



総合食品供給基地

第365号 令和4年7月28日  
 発行 大阪府中央卸売市場協会（茨木市宮島1-1-1水産棟3階）  
 連絡先 TEL：(072)636-3698、FAX：3699、メール：office@fu-ichiba.jp  
 U R L https://fu-ichiba.jp



## 管理タセンの新体制

6月27日に山口秀雄  
 管理タセン(株)社長が急逝された  
 (3ページを参照)ことから、  
 7月15日に同社の臨時  
 株主総会及び取締役会が

開催され、植田孝氏(大果  
 大阪青果(株)代表取締役  
 会長・府市  
 場協会理  
 事長)が  
 新社長に  
 選定(非常勤  
 ・無報酬)されました。



植田社長



絵：「とうもろこし」

■北冷の臨時取締役会  
 同日、管理タセンに続き北冷  
 の臨時取締役会も開催され  
 ました。電気代高騰等に  
 よる経営状況の悪化とこの  
 対策としての利用料金の  
 5%引き上げについて  
 審議され、9月からの引き  
 上げが了承されました。

北冷の取締役でもある  
 植田孝社長から「各店舗で  
 の冷蔵庫整備が進むなかで  
 北冷を存続させるのか根本  
 的なことが問われている。  
 市場として存続を求めるな  
 らば、利用者として負担は  
 止むを得ない。このことに  
 ついては、北冷から利用者  
 に説明をつくくして理解を  
 求めてほしい。」といった話  
 がありました。

### ■指定管理者評価委員会

7月11日に、大阪市内で  
 標記委員会(藤田武弘委員  
 長(追手門学院大学教授)が  
 開催され、令和4年度から  
 8年度の指定管理の運営  
 業務評価基準について審議  
 され、府が提示した11項目  
 に係る30の評価基準が原  
 案どおり承認されました。  
 今後5年間、毎年、この  
 基準に基づき、管理タセンの  
 活動内容が評価されます。

## 常駐代表者会議

標記会議が7月21日、管  
 理棟で開催されました。  
 議事概要は次のとおり  
 です。

### ■議長の選任

山口秀雄議長の急逝によ  
 り、新たな議長として三木  
 博司協会理事(大阪北部中央  
 青果(株)代表取締役社長)が  
 選任された。



三木議長

全員で黙  
 祷した後、  
 新議長から  
 山口前議長の長年の活躍に  
 感謝の言葉が贈られた。  
 なお、計量部会長につい  
 ては、三木理事にかわり  
 榎本昭弘理事(府水産物卸  
 協同組合理事長)が務める  
 ことになった。

### ■常駐代表者

氏名	所属	役職
三木 博司	大阪北部中央青果(株)	代表取締役社長
酒井 孝博	大東大阪青果(株)	専務取締役北部支社長
川辺 浩一	(株)うおいち	執行役員 北部支社長
花本 尊男	(株)大水	執行役員 北部支社長
西田 豊典	大阪府青果卸売協同組合	理事長
榎本 昭弘	大阪府水産物卸協同組合	理事長
養 計康	(株)北部冷蔵+七九わ	代表取締役社長
宮前 茂	大阪府中央卸売市場管理(株)	統括

### ■開設者(大阪府)

中村 昌也	大阪府中央卸売市場	場長
鈴木 紀之	大阪府中央卸売市場	次長
熊井 優子	大阪府中央卸売市場衛生検査所	所長

### ■府からの報告

令和4年度の取扱高  
 4~6月の市場全体の  
 取扱高は、前年度比較で、

新制度の説明会

6月28日、違法漁獲の悪質・巧妙化により漁獲量が大幅に減少しているアワビ・ナマコについて、加工・流通段階でこれを排除する仕組みを構築し適正化を図る「水産流通適正化制度」の説明会が開催され、卸売・仲卸業者ならびに水産組合から25名が出席しました。



水産庁漁政部加工流通課の川上賢治課長補佐から、違法漁業が及ぼす水産資源への悪影響や、12月から施行される「水産流通適正化法」の目的・概要が説明された後、府環農部水産課から「取扱事業者の届出」について具体的な手続き方法が説明されました。

制度運用にあたっては、16桁の漁獲番号(荷口番号)の記録・伝達及び3年間の保存義務が生じることとなりますが、活発な質疑応答が行われるなど、より深い制度の理解と法令遵守の醸成に向けた意義深い説明会となりました。

農大学生の訪問

6月20日、農業大学の生徒18名が、農作物に関する流通の仕組みを学ぶ講義の一環として、府中央卸売市場に来場しました。

午前の部では、中央卸売市場の役割や、「集荷・分荷」「価格形成」「代金決済」「情報発信」という市場機能の説明を受けた後、当市場内の主要施設を見学し、流通現場の状況や青果と水産の違いを体験しました。

午後の部では、卸売業者を訪問し、業務の内容、卸売の使命や魅力について説明を受けました。また、同大



学校の卒業生から、流通業界を目指す若者が在学中に身につけておくべきスキルが伝授されるなど、学生にとって意義深い一日となりました。協力：大果



府本庁の視察

7月4日早朝より、府財務部幹部による場内視察がありました。

市場の現状・課題等の説明後、卸売場、仲卸売場等の視察を行い、最後に再整備等に関する意見交換が行われました。

学校の見学会

7月7日に、タキイ研究農場付属園芸専門学校の見学が市場見学の場内を



後、市場の役割について北果の島崎取締役兼部長より講義がありました。続いて食品衛生検査所の講義の後、検査所に向いて説明を聞くなど熱心に学習しました。



大阪府新型コロナウイルス対策本部会議からの要請 (令和4年7月12日から当面の間)

来月のお知らせ

8月5日(金)に、協会と衛検の主催で、食中毒予防とHACCPの考え方を取り入れた衛生管理等について講習会が開催されます。午前11時から水産関係の二部に分けて行う予定です。奮ってのご参加をお願いいたします。

【府民の皆様へ】

- 感染症対策(3密の回避、マスク着用、手洗い、こまめな換気等)の徹底
- 高齢者の命と健康を守るため、高齢者及び同居家族等日常的に接する方は、感染リスクが高い場所への外出・移動を控えること
- 高齢者施設での面会は原則自粛すること
- 高齢者の同居家族が感染した場合、高齢者の命を守るため、積極的に宿泊療養施設において療養すること

【企業の皆様へ】

- 在宅勤務の活用、時差出勤、自転車通勤等、人との接触を低減する取り組みを進めること
- 休憩室、喫煙所、更衣室などでマスクを外した会話を控えること
- 高齢者や基礎疾患を有する方等、重症化リスクのある従業員、妊娠している従業員、同居家族に該当者がいる従業員について、テレワークや時差出勤等の配慮を行うこと
- 業種別ガイドラインを遵守すること

4月～6月・累月

	種類	数量(トン)	前年比(%)	金額(千円)	前年比(%)
青果	野菜	28,107	94.2	6,421,160	103.8
	果実	9,406	89.9	4,216,177	104.9
	小計	37,513	93.1	10,637,337	104.3
水産物	生鮮水産物	4,015	85.3	3,803,855	109.0
	冷凍水産物	568	99.7	771,277	120.1
	加工水産物	2,524	91.4	2,822,641	97.8
	冷凍食品	890	92.1	470,707	97.0
	小計	7,997	88.8	7,868,480	104.9
総計		45,510	92.3	18,505,817	104.5

6月・単月

	種類	数量(トン)	前年比(%)	金額(千円)	前年比(%)
青果	野菜	8,967	94.2	1,987,444	94.7
	果実	3,313	91.4	1,483,701	104.8
	小計	12,280	93.4	3,471,145	98.7
水産物	生鮮水産物	1,217	81.9	1,217,165	110.8
	冷凍水産物	168	93.5	233,108	113.4
	加工水産物	977	105.8	1,137,950	115.9
	冷凍食品	298	98.9	156,636	100.5
	小計	2,660	92.0	2,744,859	112.4
総計		14,940	93.2	6,216,004	104.4

卸売業者取扱高

(3) 市場だより

また、同講義について、6月10日に追手門学院大学経営学科村上ゼミの学生にZoomを用いたオンライン講義が実施されました。協力：ひるがの高原だいいこん生産出荷組合、JAめぐみの、JA全農岐阜、北東



オープンキャンパスへの参加  
梅花女子大学のオープンキャンパスは毎月実施されていますが、昨年度に引き続き、飛騨蔬菜出荷組合が「飛騨やさい」のPRを10月まで毎月実施されます。



J A 全農岐阜大阪市場駐在所 照井所長

山口秀雄 管理ターセン 社長が急逝

山口秀雄氏(府中央卸売市場管理ターセン社長)が6月27日に急逝されました。78歳。1995年から22年間にわたって府水産物卸協同組合の理事長を務め、水産部卸業界の発展に尽力されました。02年から毎月開催となった常駐代表者会議の議長を務め、市場全体の諸問題に全身全霊で対応されてきました。



11年には全国の中央市場で初めての指定管理者制度導入に向け、同氏の強力なリーダーシップのもと場内業者で府中央卸売市場管理ターセンが設立されました。同時に同氏が社長に就任し、12年4月から民間ならではのノウハウで次々に活性化策を打ち出し、同市場の管理運営の充実に多大な貢献をされました。このほか多くの要職を務め、その功績から99年に黄綬褒章、13年には旭日双光章を受賞されました。

8月 キッチンカースケジュール

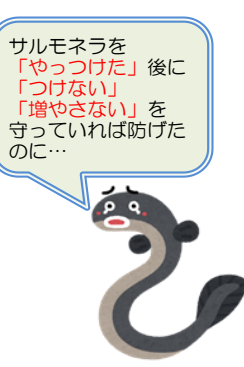
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
8:30~14:00 A たなごころ コッペパン						
10:00~15:00 B 3Rマジック カレーからあげポテト						
10:00~16:00 C Rabbit's Crepe クレープ ビデオカドリンク						
10:30~14:00 D Rice hug おにぎり おにぎりず 一服おがず						
	9	10	11	12	13	16
	17	18	19	20	23	24
	25	26	27	30	31	9/1

うなぎと食中毒

土用の丑の日にうなぎを食べる風習は、江戸時代から広まったと言われていま。栄養豊富でおいしいうなぎは夏バテ防止に効果的です。うなぎは蒲焼きが定番の調理法です。食中毒のイメージはあまりないかもしれませんが、実はうなぎを原因とするサルモネラ食中毒が、度々発生しています。サルモネラ食中毒といえは「卵や肉」を思い浮かべますが、「うなぎ」や「スッポン」もサルモネラを持つ

☆産直市のうなぎ料理で食中毒  
2018年7月、愛媛県内の産直市で販売されたうなぎ蒲焼き等を原因とするサルモネラ食中毒が発生。患者は299名にのぼりました。白焼きの担当者が生のうなぎを触った後に加熱後のうなぎを触って菌を移したことが、更にその加熱後のうなぎを常温で長時間放置して菌が増殖したことが原因と考えられました。

○しっかりと加熱！  
75度以上で1分以上、中心部までしっかりと加熱しましょう。  
○二次汚染を防ごう！  
原材料に付いているサルモネラが手指や調理器具を介して他の食品を汚染しないように、①正しい手洗い、②調理器具の洗浄消毒や使い分けをしましょう。  
生の魚介類と非包装の加工品を一緒に陳列すると二次汚染が起こる可能性がありますので、接触しないようにしましょう。



○適切な温度で保管を！  
夏季は高温多湿で、食中毒菌の増殖に最適な季節です。冷蔵(10度以下)で保管し、サルモネラの増殖を防ぎましょう。

令和3年度細菌検査の一例

検体	検体数	検査項目例
生食用かき	45	腸菌※、ブドウ球菌※、大腸菌
生食用稚魚介類	24	腸菌、ブドウ球菌、大腸菌
マグロ	11	腸菌、ブドウ球菌、大腸菌
うなぎ穴子加工品	10	サルモネラ、腸菌、ブドウ球菌、セラウス菌
スプラウト	5	腸管出血性大腸菌O26H11(O157)、ブドウ球菌

※ 腸菌: 腸炎ビブリオ、ブドウ球菌: 黄色ブドウ球菌

◎検査所が行う食中毒菌の検査  
本検査所でも食中毒を防ぐため、毎年、様々な食品の検査を実施しています。

金額ベース約8.7億円、4.2%増。直接集荷は金額ベース約0.7億円、2.3%増。

○農水省の訪問  
7月25日、農水省の課長等が青果の物流改善について意見交換・視察に来場。

○管理棟の空室整理

2階の歯科医退去跡の整理が終了。今後、利用者が決まり次第、残置物を処理予定。

○新型コロナ対策

6月中旬から当市場でも30人以上が新型コロナに感染。**今一度、感染対策の徹底**(出勤前に風邪症状があれば出勤を控える、出勤後に症状が出れば速やかに帰宅する等の対応)をお願いする。

■管理モリからの報告

■活性化事業

○ハード事業

水産仲卸A棟防鳥ネットの設置工事(6/24に完成)

○ソフト事業(大学連携)

・オール梅花2DAYキャンパス

(中学・高校・大学のオンラインキャンパス) エキスパートで開催(7/30、7/31) ↓ 飛騨野菜出荷組合による「飛騨やさい」のPR、JAひだ花弁出荷組合による「飛騨の花」のPR。

※協力: 飛騨野菜出荷組合、JAひだ花弁出荷組合、JAひだ、JA全農岐阜、北東



・梅花女子大学オープンキャンパス(8/7)

↓ 飛騨野菜出荷組合による「飛騨トマト」のPR。

※協力: 飛騨野菜出荷組合、JAひだ、JA全農岐阜、北東

■維持補修事業

7月20日現在で71件、1522万円の事業を実施。

■府依頼事業

青果棟屋上防水改修工事と水産仲卸B棟低圧共用幹線設備改修工事を予定。

■ごみ関連

○不法投棄

6月は10件で、対策開始前に比べて92.5%の減少。

○青果くず排出

・6月実績

排出量、処理費用ともに対前年比約8%増。

・4月からの累計

排出量、処理費用ともに対前年比0.4%増。

現在も増加傾向。**大量投棄は事前に管理Cまで連絡**(食品ロス削減と受け入れ体制の準備のため)。

今後、状況を見極め、従量制による課金を検討。

○木製廃棄パレット排出

・6月実績

排出量、処理費用ともに対前年比約14%の減少。

・4月からの累計

排出量、処理費用ともに対前年比約23%の減少。引き続き更なる削減を目指し、**外部の持ち込み禁止、利用可能なパレットの再利用を徹底。**

■カラス対策

固定式捕獲籠による捕獲に努める。5月中旬から捕獲数が激減したため8月5日、東都大学杉田教授による実態調査を予定。

■禁煙対策

7月20日現在、通告書交付(違反者)は320件(うち場外は82件)。警告書交付(再違反者)は28件↓さらに累犯で入場禁止。

■その他

・管理棟前交差点の安全

車両感知遮断機の設置 ↓ 設計は完成、8月2日業者協議。

・西2号門逆走車両への対策 ↓ 設計は完成、8月2日業者協議。当面西2号門を全日閉鎖。(6/4)

・そ族(そえむ)被害防止対策  
8月1日より年度内の施行予定で検討中。

■その他

○カレンダーの挿絵

来年のカレンダーの挿絵の確認・了承を得た。

なお、曜日の色をかけないシンプルなデザインにすることに決めた。

○食品衛生講習会の開催

コロナ対策に十二分に留意しつつ、8月5日に食中毒予防等に係る講習会を実施することになった。

大学・産地との連携

徳島県産さつまいもの定植

5月24日に、梅花女子大学心理子ども学部子ども教育学科2年・3年生が、校内の畑に、徳島県産さつまいもの苗を定植しました。JA大津松茂の方々を講師に招き、植えるコツ等のミニ講義もありました。

講師の方々の手厚いフォローもあり、慣れない手つきでも上手に植えつけていました。

協力: JA大津松茂、徳島県北果、管理モリ



岐阜県産「ひるがの高原だいこん」の講義

6月2日に、JA全農岐阜より講師を招き、梅花女子大学食文化学科2年生の学生を対象に、岐阜県産の「ひるがの高原だいこん」がどのような環境で育ち、どのような特色を備えているかを学びました。

そして最後に毎年開催されている「だいこんおろしアートコンテスト」についてPRもありました。



JA全農岐阜大阪市場駐在所 荒木氏